

はしがき

—— はしがきにかえて、北村教官のロンドン便りを掲載します。——

ロンドンには、雑然とした町です。

随所に公園があり、安らぎを与えてくれますが、「雑然」という印象にはめぐまれません。この「雑然」という感じは、別に悪い意味のみ使っているわけではありません。日本の生活のきめの細かさに比べての比喻です。例えば、食事なども、レストランに行っても大したサービスはなく、単に量のみ多く、皿の上に「雑然」と並べられているだけです。しかし、良いところも勿論あります。博物館をはじめとする公共施設が充実しており、交通運賃も日本よりは安上がりです。

さて小生のいるアジアアフリカ研究院ですが、三重大の教育学部と大学の図書館をくつつけたくらいの規模の建物です。月曜から金曜まで毎日精勤に研究室に通っています。現在いるアパート（十一月一日より別のところに移ります。）からは、三〇分程で着きます。ただ昼休みが、二時間ないし二時間半もあり買物はとまどいました。万事にスローテンポで銀行の事務なども、のろくさい印象を受けます。レストランでは、五時からしか酒が飲めず、昨日気がついたことですが、酒屋でも日曜日には、晩の七時からしか酒を売らないのです。変わったところですが、快晴という日はまれです。なんだか悪口ばかり並べ立てたようですが、小生の生活は予想よりはるかに順調に進行しておりますので御安心下さい。

本年も「ふびと」発刊の季節となりましたが、留学のためとはいえ、編集責任者として気がかりです。しかし、他の先生方の御指導で、他の研究誌に優るとも劣らないものが完成されることと期待しています。